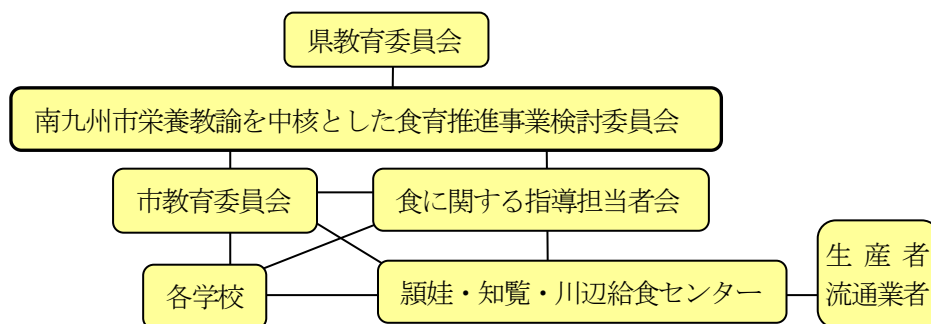


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	鹿児島県
推進地域名	南九州市

## 1. 事業推進の体制



「南九州市 栄養教諭を中核とした食育推進事業検討委員会」【学校関係者(栄養教諭3人, 小中学校長3人, PTA代表1人, 養護教諭部会代表1人)や生産者・流通団体 (JA南さつま1人, 学校給食食材提供農家代表1人), 行政(教育長及び担当指導主事, 農政部代表, 県教委(担当指導主事)合計18人)】を設置し, テーマや実施計画, 実施内容等の検討や情報交換を行っている。

また推進内容については, 管理職研修会, 給食担当者会, 養護教諭部会等を通じて周知するとともに, 3人の栄養教諭が各学校を兼務し, 市内全小・中学校で指導ができる体制を整えている。

## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 学校における食に関する指導の充実のための取組

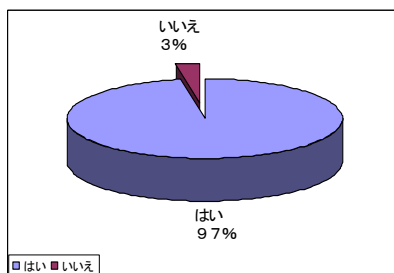
(1) アンケートを実施し, 食に関する実態を把握するとともに本事業実施による変容を調査

7月と1月の2回, 全小・中学校児童生徒(約3200人)を対象としたアンケートを実施した。

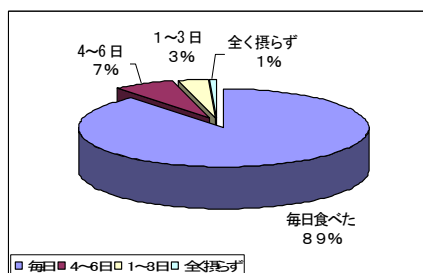
小・中学生の朝食の摂食の状況や家庭での食事の様子, 地場産物への知識など13項目を調査し, 結果をもとに指導内容の重点項目の絞り込み, 指導資料等の作成を実施した。

#### 【第1回調査結果の朝食欠食に関する項目】

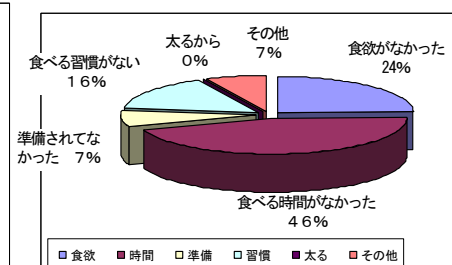
Q1 けさ, 朝ご飯を食べてきましたか。



Q2 この一週間のうち何日朝ごはんを食べましたか。



Q3 Q1で「いいえ」と答えた人は, なぜ食べてこなかったのですか?



調査当日, およそ3%の子どもたちが朝食を食べず, Q2においては, およそ11%の子どもたちが朝食を食べずに登校することがあるとしている。その理由として「時間がなかった」が50%近くを占めている。「早寝・早起き」の習慣の確立が重要と考えられる。その改善のためには家庭の協力が欠かせない。

#### 【アンケートからわかった子どもたちの実態(上記以外)】

- 1%(約30人)の児童生徒が主食を食べていない。
- 副食のない, 主食だけという児童・生徒が21%(約620人)いる。
- 朝ごはんを単品ですませている児童生徒がいる。
- 0.2%(約6人)の児童生徒が, 朝ごはんの準備がしていない。
- 0.4%(約14人)の児童生徒が朝ごはんを食べる習慣がない。

(2) 指導教材や指導資料の充実（パネル等）

第1回アンケートをもとにした各学校用の食育啓発ポスター，各栄養教諭が指導時に使用する指導資料，南九州市の農畜産物マップを作成した。



学校給食の目標等を示した指導資料



市農政部等と協力して作成した南九州市農産物マップ



(3) 栄養教諭による計画的な給食時間の訪問指導

本市では，3学校給食センターに栄養教諭が配置され，それぞれ8～10校の給食を担当している。各栄養教諭は食育を推進するため，学校給食を生きた教材として活用し，受配校の訪問指導を積極的に行った。



給食時間の訪問指導 (大丸小学校)

(4) 学校における食に関する指導の全体計画・年間指導計画の充実に向けた栄養教諭の積極的活用の促進

栄養教諭の積極的な活用を各学校に呼びかけ，学級担任や教科担任と連携し，食に関する指導の充実に努めてきた。(平成21年度3栄養教諭が関わった食に関する指導はのべ128時間になる。)



浮辺小学校



青戸小学校



川辺小学校



大丸小学校

(5) 食育に関する校内研修会の実施，栄養教諭による指導助言



平成21年8月5日(水)  
南九州市の家庭科担当教諭を対象に食に関する指導をテーマとした研修会を実施した。



平成21年8月21日(金)  
南九州市川辺中学校全職員を対象に食生活と健康をテーマとした職員研修を実施した。

(6) 地場産物を活用した生きた教材となる献立の充実



地場産物活用献立検討会を3回実施した。それぞれの学校給食センターの取組を紹介したり，新たな地場産物を活用した献立検討を重ね，3学校給食センター統一メニューで給食を実施するなど，確実な実践が展開してきた。